明治安田生命 夏に関するアンケート調査を実施! 夏休みに使うお金は3年ぶりに増加!

猛暑が続く今年の夏は、外出を控えて「自宅でゆっくり」節約志向? 帰省費用は調査開始以来最低を更新!「キッズウィーク」の浸透に課題あり!?

明治安田生命保険相互会社(執行役社長 根岸 秋男)は、お盆の帰省シーズンを前に、夏に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

支に関うもプラブート時点と大胆しよったのでに取出しよう。	
1. 今年の夏休み	
■夏休みに使うお金は3年ぶりに増加!「83,814円」に!	_··· (P4)
当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「夏の消費」「夏のボーナス」について	こ分析!
- タンナンサのほぼに、ナムナン部的セルの	
■働き方改革の浸透に、まだまだ課題あり? 夏休みの日数「理想」と「現実」のギャップ(差)は未だに埋まらず!	(P7)
支持の7の自然・生心」と「処夫」の「「フン(左)は不たに生みり。	(1 / /
■猛暑が続く今年の夏休みは、外出を控えて「自宅でゆっくり」節約志向	<u>?</u>
「帰省」で家族との絆を深める人が昨年から大きく増加!	··· (P8)
■国内旅行の行き先は「関東」が2011年の調査開始以来、初の首位陥落	抜 I I
「近畿」が初のトップ!	н (Р10)
2. 帰省に関する調査	
■帰省費用は5年連続の減少!	
「31,112円」と、調査開始以来の最低額を更新!!	··· (P12)
■帰省の理由は「親に会うため」が約9割と圧倒的!	
年間の帰省回数は「現状で満足」が約7割、	
増やしたいという人は約3割!	··· (P14)
3. キッズウィーク	
■「キッズウィーク」の認知度はまだまだ低い!	(5.4.0)
制度の普及・定着には「会社の理解」が必要!?	··· (P16)
当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「キッズウィーク」について分析!	
■子どもが休みでも親は休暇を取得しない!?	

半数以上の親が「キッズウィーク」による休暇を取得しないと回答! · · · · (P18)

対象者の属性

- 1. 調査対象
 - 20~59歳の男性・女性
- 2. 調査エリア **全国**
- 3. 調査期間

2018年7月2日(月)~7月9日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1, 120人

6. 回答者の内訳

(単位:人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	計
男性	140	140	140	140	560
女性	140	140	140	140	560
計	280	280	280	280	1, 120

【目次】

1. 今年の夏休み

(1)夏休みに使う金額	・・・・・ 4ページ
(2)夏休みの日数における「理想」と	「現実」 ・・・・・ 7ページ
(3)夏休みの過ごし方と理由	・・・・・ 8ページ
(4)旅行の行き先	・・・・10ページ
2. 帰省に関する調査	
(1)帰省に使うお金	・・・・12ページ
(2)帰省の回数と理由	・・・・14ページ
3. キッズウィーク	
(1)制度の認知度	・・・・16ページ
(2)キッズウィークによる休暇取得の類	ま 意向 ・・・・・18ページ

(1) 夏休みに使う金額

夏休みに使うお金は3年ぶりに増加!「83,814円」に!

- 〇夏休みに使う金額について聞いてみたところ、全体の平均は、「83,814円」と、 昨年から「2,434円」増加し、3年ぶりの増加となりました。
- ○夏のボーナスについて聞いてみたところ、「増えた」と回答した人は13.1%と、昨年を2.2ポイント上回りました。また、「減った」と回答した人は10.6%と、昨年を1.3ポイント下回りました。
- 〇男女別でみると、男性は「76,873円」と昨年から5,850円減少する一方、女性は「90,755円」と、昨年から10,726円の大幅増加となりました。
- 〇地域別では、「関東」(112,344円)が昨年に続きトップ。全8地域のうち、昨年から増加した地域は「関東」などの5地域、減少した地域は「九州・沖縄」などの3地域となりました。なお、トップの「関東」と、ワーストの「九州・沖縄」の差は「70,355円」と、地域格差はさらに拡大しました。
- ○夏休みに使うお金の決済手段について聞いてみたところ、「現金」48.8%、「クレジットカード」47.5%となりました。経済産業省は、ほかの先進国に比べ利用率の低い「キャッシュレス決済」の比率を2025年までに40%に引き上げる目標を掲げており、今後の「キャッシュレス決済」の本格的な普及に期待したいところです。

~チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る!~

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



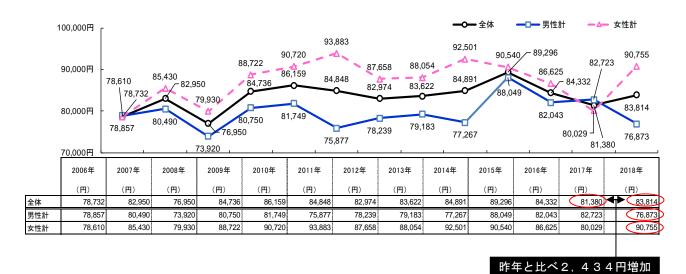
●今年の夏の消費について

夏休みに使う金額は、3年ぶりの増加となりました。夏のボーナスの増加で、財布の紐が緩んでいるということでしょう。女性だけが急増し、男性が減少しているのは意外な結果ですが、日本の場合は、主婦が家計を管理する割合が高い分、賞与増額の恩恵を男性よりも女性が先に受けているのかもしれません。ボーナスは年ごとの変動が大きい分、夫のこづかい増に直接結び付いていない可能性もあります。個人消費の伸び加速のためには、やはり月例給のさらなる回復が必要と言えそうです。また、今年は夏物消費への「猛暑効果」も期待できるかもしれません。

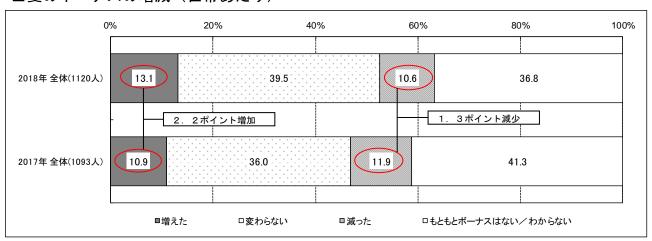
●今年の夏のボーナスについて

夏のボーナスのアンケート結果を見ると、ボーナスが「増えた」と回答する人が増加し、「減った」と回答した人が減少するという喜ばしい結果となりました。ボーナスは、1年前の企業業績との連動性が高い傾向にありますが、2017年は、好調な世界経済のもと、輸出企業を中心に多くの企業で過去最高益を更新したことが、ボーナスの増加につながったと考えられます。また、多くの業種で人手不足が深刻化しており、より良い人材確保のためにボーナスの増額に踏み切った企業も多いと思われます。今後は、月例給への伸び波及も望まれるところです。

■夏休みに使うお金の推移(男女別)



■夏のボーナスの増減(世帯あたり)



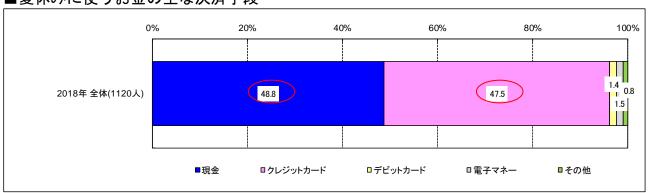
■夏休みに使うお金(地域別)

(単位:円)

	\— I	<u> </u>		
	①2017年	②2018年	差(②一①))
関東	100,411	112,344	11,933	\bigcirc
近畿	77,672	82,659	4,987	
東海	85,692	80,213	▲ 5,479	—
北海道	55,403	78,571	23,168	\bigcirc
中国•四国	59,584	66,301	6,717	\bigcirc
東北	57,358	63,472	6,114	
甲信越•北陸	66,656	53,712	▲ 12,944	1
九州•沖縄	74,640	41,989	▲ 32,651	1
全国	81,380	83,814	2,434	

- ・全8地域のうち、昨年から増加した地域は 「関東」「近畿」「北海道」「中国・四国」 「東北」の5地域!
- ・「関東」と「九州・沖縄」の差は 「70,355円」と、地域格差大!

■夏休みに使うお金の主な決済手段

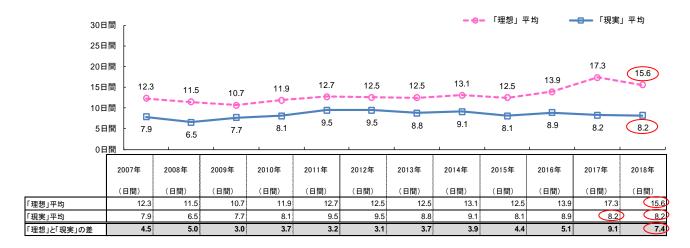


夏休みに使うお金の決済手段は、「現金」、「クレジットカード」の 2つに大きくわかれた結果に!

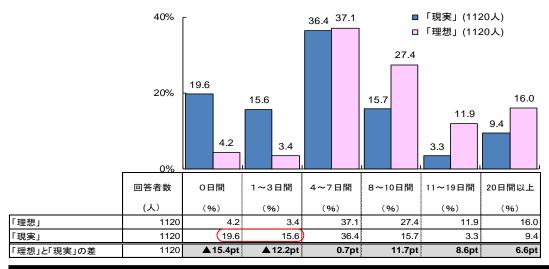
(2) 夏休みの日数における「理想」と「現実」

働き方改革の浸透に、まだまだ課題あり? 夏休みの日数の「理想」と「現実」のギャップ(差)は、いまだに埋まらず!

- 〇次に、夏休みの日数について、「理想」と「現実」を聞いてみました。
- 〇「理想」の夏休みの日数は「15.6日間」と、昨年と比べ、約2日短くなりました。 一方、「現実」の夏休みの日数は「8.2日間」と、昨年と同結果となり、「理想」と「現 実」のギャップ(差)は、依然「7.4日間」の乖離がみられました。
- ○「現実」の夏休みの日数は「○日間」・「1~3日間」と答えた人が、あわせて35.2% と、3割以上となりました。長期間の夏休みを取得することができない人は、まだまだ 多いようです。安倍政権が推進する「働き方改革」により、ワーク・ライフ・バランス を重視する企業が増えていますが、「理想」と「現実」のギャップ(差)を埋めるために は、まだまだ課題があると言えそうです。
- ■「理想」の夏休みの日数と「現実」の夏休みの日数の推移



■「理想」の夏休みの日数と「現実」の夏休みの日数の比較(土日も含め連続しての日数)



「現実」の夏休みの日数は「0日」・「1~3日」と答えた人が3割以上!「理想」と「現実」のギャップは大きい!

(3) 夏休みの過ごし方と理由

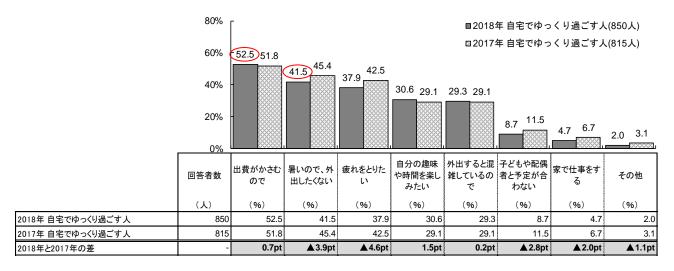
猛暑が続く今年の夏休みは、外出を控えて「自宅でゆっくり」節約志向? 「帰省」で家族との絆を深める人が昨年から大きく増加!

- ○夏休みの過ごし方について聞いてみたところ、トップは「自宅でゆっくり」(75.9%)、 2位が「国内旅行」(37.1%)、3位が「帰省」(31.9%)となりました。
- ○3位の「帰省」(31.9%)は昨年と比較して6.0ポイント上昇しました。スマートフォンやSNS等の普及により、人間関係が希薄になっていると言われる昨今においても、夏休みを利用し、家族との絆を深める人が増えているようです。
- ○「自宅でゆっくり」する理由は、1位が「出費がかさむので」(52.5%)、2位が「暑いので、外出したくない」(41.5%)と、節約志向の高まりや猛暑の影響で外出を控える人が多いようです。
- 〇「理想」の夏休みの過ごし方と「現実」の夏休みの過ごし方を比較してみると、「理想」 の過ごし方が「海外旅行」と答えた人は35.4%に対し、「現実」では11.3%と、 24.1ポイントの乖離となり、同じく「国内旅行」は14.2ポイントの乖離という 結果になりました。

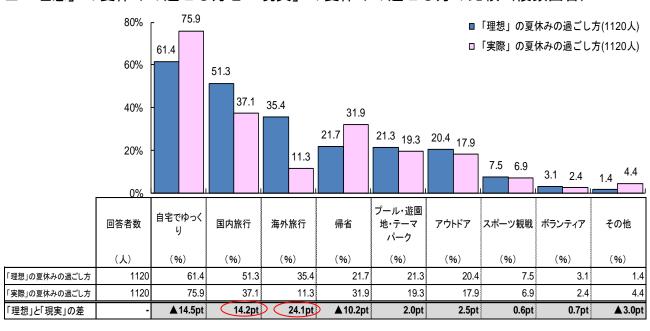
■今年の夏休みの過ごし方(複数回答)



■夏休みを自宅でゆっくり過ごす理由(複数回答)



■「理想」の夏休みの過ごし方と「現実」の夏休みの過ごし方の比較(複数回答)

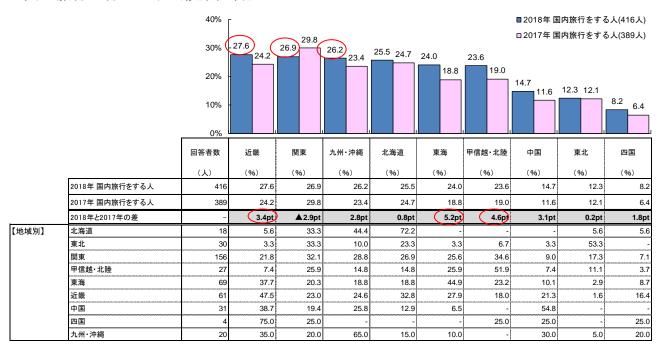


(4) 旅行の行き先

国内旅行の行き先は「関東」が2011年の調査開始以来、初の首位陥落!! 「近畿」が初のトップ!

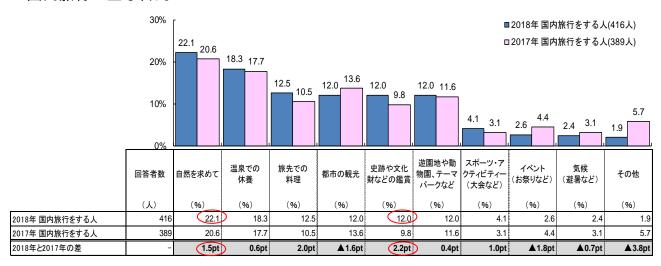
- ○夏休みの過ごし方で「国内旅行」と回答した人に行き先を聞いてみました。
- ○2011年に同項目を調査して以来、「関東」がトップに君臨してきましたが、今年の調査では初めて「近畿」(27.6%)がトップとなり、2位が「関東」(26.9%)、3位が「九州・沖縄」(26.2%)となりました。
- 〇地域別でみると、1位の「近畿」は「東海」以西からの旅行客が多く、「関東」は全国各地域から旅行客が来ており、「九州・沖縄」、「北海道」は同地域を居住地とする旅行客が多い傾向がみられました。1位の「近畿」は、近年継続して入場者数を増やしている大阪府の「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」などが人気の要因と言えそうです。
- 〇また、昨年と比べ、大きく旅行者が増えた地域は、「東海」(5.2ポイント増加)、「甲信越・北陸」(4.6ポイント増加)でした。国内旅行の主な目的では、「史跡や文化財などの鑑賞」(2.2ポイント増加)、「自然を求めて」(1.5ポイント増加)となっていることから、2013年に世界遺産に登録された「富士山」や、三重県の「伊勢神宮」などの史跡・文化財の鑑賞、北陸新幹線の開通に伴い、「甲信越・北陸」への交通アクセスが便利になったことなどが要因なのかもしれません。

■国内旅行で行く地域(複数回答)



「近畿」が初の人気NO. 1!! 「東海」・「甲信越・北陸」も人気上昇!!

■国内旅行の主な目的



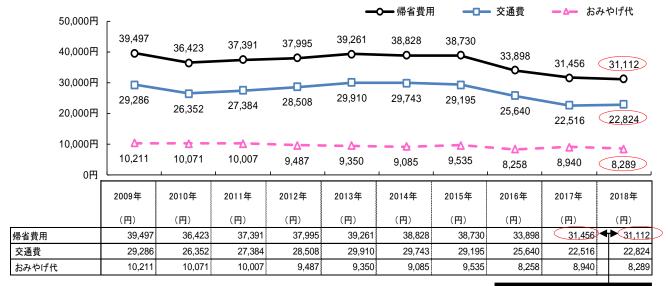
2. 帰省に関する調査

(1) 帰省に使うお金

帰省費用は5年連続の減少! 「31,112円」と調査開始以来の最低額を更新!!

- ○帰省費用(帰省の際に使う交通費+おみやげ代)について聞いてみました。
- ○交通費は「22,824円」と、昨年から「308円」増加しましたが、おみやげ代が「8,289円」と昨年から「651円」減少したことにより、帰省費用(交通費+おみやげ代)は、2009年の調査開始以来最低額を更新した昨年をさらに「344円」下回り、「31,112円」という結果でした。
- 〇また、お盆に孫や親戚の子どもにお小遣いを渡す「お盆玉」について予定を聞いたところ、7. 4%の人が「渡す予定がある」と回答しました。
- 〇「渡す予定がある人」に一人当たりの金額を聞いたところ、金額の平均は「8,520円」 と、昨年から「284円」減少しました。
- 〇前述のとおり、夏休みの予算自体は増加していますが、帰省費用や「お盆玉」に使うお金は 節約志向にあるようです。

■帰省費用の推移



昨年と比べ344円減少

■お盆玉を渡す予定

	回答者数	渡す予定が ある	渡す予定はない	わからない
	(人)	(%)	(%)	(%)
2018年 全体	1120	7.4	75.8	16.8
2017年 全体	1093	7.2	79.1	13.6

■お盆玉の金額

	回答者数	0円~ 1000円	1001円~ 3000円	3001円~ 5000円	5001円~ 10000円	10001円以上	平均
	(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(円)
2018年 渡す人	83	14.5	19.2	26.5	28.9	10.8	8,520
2017年 渡す人	79	15.2	16.5	25.4	31.7	12.7	8,804
2018年と2017年の差	-	▲ 0.7pt	2.7pt	1.1pt	▲ 2.8pt	▲1.9pt	▲284

昨年と比べ、284円減少

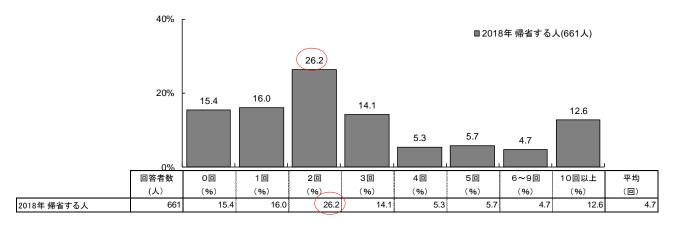
2. 帰省に関する調査

(2)帰省の回数と理由

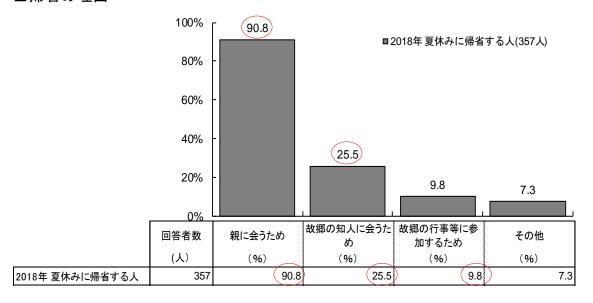
帰省の理由は「親に会うため」が約9割と圧倒的! 年間の帰省回数は「現状で満足」が約7割、増やしたいという人は約3割!

- 〇帰省に関する意向を聞いてみました。
- 〇帰省をする人に、年間の帰省回数を聞いたところ、平均は「4.7回」という結果でした。最も多かったのが26.2%を占めた「2回」でした。多くの人が夏休みのほか、 ゴールデンウィークや年末年始などを活用して帰省しているのでしょうか。
- 〇帰省の理由は「親に会うため」(90.8%)が圧倒的で、「故郷の知人に会うため」 (25.5%)、「故郷の行事等に参加するため」(9.8%)と続きました。
- 〇帰省頻度については、69.0%の方が「現状で満足」と回答する一方、「増やしたい」人は25.6%という結果となりました。大規模自然災害が相次いでいる昨今、改めて家族との絆が重要視されているのではないでしょうか。この夏、故郷のご家族に会いに行ってみてはいかがでしょうか。

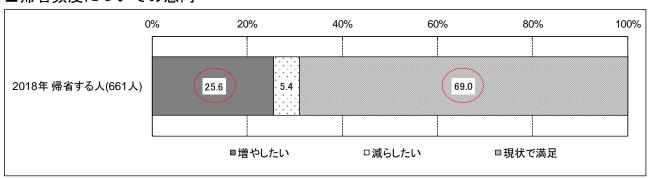
■帰省の回数



■帰省の理由



■帰省頻度についての意向



3. キッズウィーク

(1)制度の認知度

「キッズウィーク」の認知度はまだまだ低い! 制度の普及・定着には「会社の理解」が必要!?

- 〇「個人消費の拡大」、「交通混雑の緩和」、「有給休暇の取得推進」などを目的とし、 2018年4月から一部自治体へ導入された「キッズウィーク」(※)について聞いてみました。
- 〇「キッズウィーク」の認知度は、「知らない」が81.0%と、実に8割以上の人が「知らない」と回答しました。
- 〇職業別に見ると、「自営業、自由業」の90.3%、「専業主婦(主夫)」の85.5%、「会社員(経営者層含む)」の78.5%が「キッズウィーク」を「知らない」と回答しました。
- 〇今年4月に開催された「キッズウィーク総合推進会議」で公表された調査結果によると、「導入済み」または「検討中」と回答した都道府県は59.6%(28都道府県)、 うち「導入済み」と回答した都道府県は14.9%(7都道府県)にとどまっており、 一般の認知度はまだまだ低いようです。
- ○「キッズウィーク」が今後普及し、定着するためには「会社の理解」が必要であるという回答が65.3%と最も多い結果となりました。
 - (※)「キッズウィーク」とは、働き方改革と裏表の関係にある、「休み方改革」推進の一環として、2018年4月に一部自治体に導入された取組み。学校の夏休みなどの長期休暇の一部をほかの時期にずらすことで、長期休暇を分散し、有給休暇の取得推進や、個人消費の拡大、親と子が向き合う時間の増加を促すもの。休暇の分散時期は、「体験的学習活動等休業日」として自治体ごとに設定される。

~チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る!~

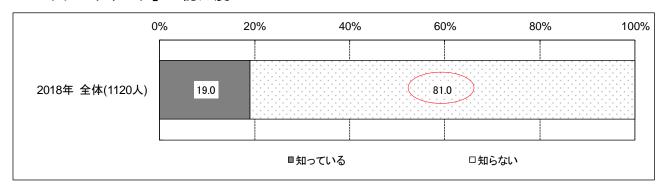
■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●「キッズウィーク」について

今年から始まった「キッズウィーク」、大人と子どもが一緒にまとまった休日を過ごせるうれしい制度です。ただし、導入しているのは一部自治体にとどまっており、一般の認知度はまだまだのようです。特に、制度定着の課題として、会社側の理解に不安を抱く人が多いようです。企業の理解なくして、こうした制度を普及させるのは不可能です。「キッズウィーク」は、働き方改革と表裏一体の「休み方改革」と言えるものであり、導入に向けた政府の強い働きかけと、休みを取りやすくするための企業側の努力、経営者の意識改革などが不可欠と言えます。

■「キッズウィーク」の認知度



【職業別】

	知っている	知らない
	(%)	(%)
2018年 全体	19.0	81.0
会社員/会社役員/経営者	21.5	78.5
公務員	32.7	67.3
自営業、自由業	9.7	90.3
パート、アルバイト	18.8	81.2
学生	21.6	78.4
専業主婦(主夫)	14.5	85.5
その他	12.3	87.7

■「キッズウィーク」の普及・定着に必要なこと



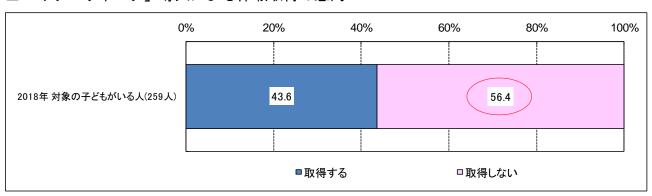
3. キッズウィーク

(2) キッズウィークによる休暇取得の意向

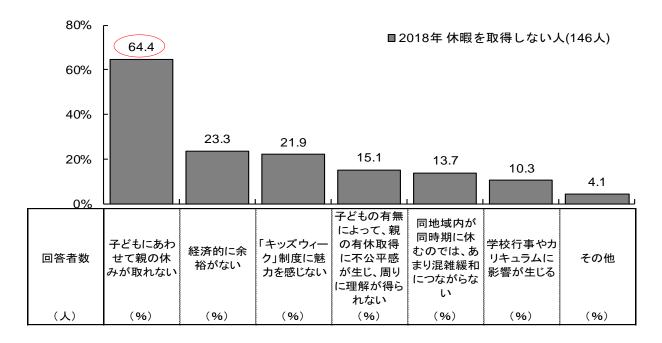
子どもが休みでも親は休暇を取得しない!? 半数以上の親が「キッズウィーク」による休暇を取得しないと回答!

- 〇「キッズウィーク」導入により子どもが休みでも、休暇を「取得しない」という親は 56.4%と半数を超えました。
- 〇理由として、「子どもにあわせて親の休みが取れない」が64.4%と最も高く、親が子どもに合わせて柔軟に対応できない現状があるようです。
- ○休暇を取得すると回答した方へ、取得したら何をしたいか聞いてみたところ、「国内旅行」 (64.6%)が最も多く、次いで「プール・遊園地・テーマパーク」(43.4%)、 「海外旅行」(33.6%)の順となりました。

■「キッズウィーク」導入による休暇取得の意向



■休暇を取得しない理由



■休暇を取得した場合の過ごし方

